

2026 海員春闘

組合員と家族の生活を守る中央交渉スタート

海上を魅力ある職場に! 人が育つ船に未来がある

3月2日、13時30分から、海員福祉研修会館（ホテルマリナーズコート東京）で、日本カーフェリー労務協会との第1回交渉（呼称=日本カーフェリー交渉委員会）が開催され、押し寄せる物価高騰の波から、組合員とその家族の生活を守るための海員春闘の中央交渉が始まった。

海員組合と各船主団体（日本カーフェリー労務協会・内航二団体・全内航）で行われる労働協約改定の中央交渉は、わが国の船員社会の賃金水準を引き上げるけん引役としての役割を果たしている。今次春闘を取り巻く状況は、4年という年月を過ぎてなお、停戦への兆しが見えないロシアのウクライナ侵攻、緊張の度合いを増し予断を許さない中東情勢など先行き不透明な状況にあり、終わりの見えない物価高から労働者の生活が破綻することがないように、そして日本の海上物流を中心とした経済活動が停滞・破綻しないよう交渉の舵取りは難しい。海運業・水産業の業界の将来を見据えての判断が求められる。

第1回中央交渉は日本カーフェリー労務協会との交渉を皮切りに、内航二団体、全内航と交渉を行い、各交渉で組合要求の趣旨説明を行い各船団は真摯に検討したいとした。

「海員だより」